

授業科目名 (講義題目)	産学連携マネジメント (QREC とのダブルコード科目)		開講学期 単位数	後期 2単位
担当教員	高田 仁		講義コード	科目区分 対象学生
			18176040	
開講予定日	後期土曜日4～5限(14:50～18:10)の2コマ連続で、9/29(1コマのみガイダンス)、10/6、10/20、11/3(祝)、11/17、12/8、12/22、1/26に開講する。			
履修条件	MOT 関連科目だが、理系のバックグラウンドは必須ではない。企業戦略、イノベーション・マネジメント等を履修しておくことが望ましい。	キーワード	技術経営(MOT)、産学連携、技術移転、科学技術商業化、知的財産	
全体の教育目標	産学連携を体系的に理解し、大学や公的研究機関が保有する科学技術成果を活用した事業化に必要な知識とスキルを修得する。	個別の学習目標	様々な産学連携の局面においてwin-winを実現するマネジメント手法について学ぶとともに、演習を通じて実践的スキルを習得する。	

## 授業の概要

知識経済では、企業にとって事業開発・技術開発の過程で自前主義に固執することなく、外部資源の導入を選択肢に持つことは重要な戦略のひとつである。このとき、企業間のアライアンスのみならず、大学や公的研究機関との連携によって目的を達成することを戦略の中心に据える例も近年増加している。翻って大学においては、研究成果の社会普及がミッションのひとつに位置づけられ、各所で産学連携への取り組みが活発化している。

本講義では、近年注目を集めている産学連携について、その目的や意義、効果などについて学ぶ。具体的には、国内外の具体的な事例を取り上げながら、萌芽の段階にある科学技術を評価し事業化する際のポイントを理解するとともに、実務的に求められる知財のライセンス契約・共同研究契約等の実践的知識、各種シード技術情報の獲得手法、産学連携スキームの構築手法、利益相反のマネジメント手法などを習得する。これら一連の学習を通じ、産学連携を成功に導くスキル修得を目指す。

また、QuickLook と呼ばれる科学技術商業化ツールを活用し、大学や公的研究機関が保有するシード技術を新規事業に活用する際の技術評価や市場参入戦略立案のプロセスを実践的に学ぶ。

本講義は、外部技術の導入によって新規事業を立ち上げる企業経営者や新規事業担当者、起業家、大学産学連携部門・TLO 等のスタッフ、地域の産学官連携を支援する行政マンを対象とする。

## 授業の進め方

全15回の講義の前半では、知財やそのライセンス、共同研究、大学発ベンチャーと利益相反マネジメントなど、産学連携に関する幅広い基礎知識を学ぶ。後半では、QuickLook を活用し、シード技術の探索と評価、市場参入のシナリオ作成を含む演習を行う。なお、本演習は、九州大学が現有する技術シードを用いた実践的なものとする予定である。

## 教科書および参考図書

- 必要な資料は講義の都度配布するが、参考図書としては下記が挙げられる。
- ・ビジネスクリエーション (ビル・オーレット著、2014年、ダイヤモンド社)
  - ・スタートアップ (ダイアナ・キャンダー著、2017年、新潮社)
  - ・理工系のための特許、技術移転入門 (隅蔵康一著、2003年、岩波書店)
  - ・TLO とライセンスアソシエイト (渡部俊也、隅蔵康一著、2002年、株式会社BKC)

## 試験・成績評価の方法等

- ・平常点……………50% (課題の提出、出席と発言)
- ・QuickLook 演習点……………50% (発表会の得点、最終レポート評点にもとづき、チーム内の貢献度に応じて加点)